

## 保育計画成果報告書

法人名	特定非営利活動法人キッズポケット
施設名	キッズポケット保育園
報告者(役職)	長谷川優子(主任)
住所	横浜市西区岡野 2-5-18 サミットストア併設
連絡先	Tel/045-316-2622 E-mail/summit@kidspocket.xsrv.jp

### ○タイトル(保育計画)

多様な遊びの環境のもと意欲的に体を使って遊ぶ

### ○主な助成備品

テーブル&ベンチセット、マルチ運動遊びセット、わくぐりトンネル、折りたたみ鉄棒、エアボールラウンド、あなぼこ、楽器セット、乗用ハイウエイスポーツ、ブロックセット、ペッタンドロップ その他(エアバス、屋外用掛時計)

## 1. 保育計画策定の目的

0～2歳児30名が通う当園では、年間を通し様々な保育活動を行っている。特に主な活動として、晴れた日には一年中(高気温時は除く)、徒歩10分の距離に数か所ある公園に散歩に出向く。体力づくりや季節の自然に触れたいということが大きな目的である。加えて園庭では、立ったまま遊べる砂場やウッドデッキでの滑り台やクライミング遊具などを活用し、積極的に体を動かす機会を設けている。しかしながら、30名全員で遊ぶには少々手狭な園庭環境であることや、近隣の保育施設も同様の環境下の為、公園の利用が重なるなど、満足に体を動かし遊ぶことができない現状にあった。

そこで、より日常的に体の発達を促すことができる年齢に合わせた多様な遊びの環境を、室内外問わず整えたいと考えるようになった。身体的成長が最も著しいこの時期に、運動の基となる多様な動きを幅広く確実に獲得すること、体力・運動能力を高めることは、子ども達の生涯にわたって重要となる。更には、それらの活動を通し、何事にも粘り強く意欲的に取り組み自信をもつ＝非認知能力の土台を育み、子ども達が豊かな人生を送る為の基盤づくりとなる保育に繋げたく、今回の計画に取り組むこととした。

## 2. 具体的な実施内容

### 【0歳児】

#### □テーブル&ベンチセット

4月の段階では座ることが難しかった為、ベンチに上半身を乗せたり、葉を置いたり叩いたりして遊んでいた。年度後半になると、背もたれがないベンチに1人で座ることができる

ようになった為、ジュース（手作りおもちゃ）や葉、石等自然物を用いておままごと遊びができるようになった。また、水分補給の時間には全員で座り、お友だちと顔を見合わせながら、より楽しく過ごすこともできた。



#### □乗用ハイウェイスports

初めの頃は、乗って保育士が後ろから押すことが多かったが、脚力がついてくることにより、自分で走らせることができるようになった。走るコースを設定することによって、曲がり角では、脚でこぐ動作に加え、上半身も使っていた。スピードの加減調整もできるようになり、体全体を使用して運動発達を促すことができた。途中、踏み切り遊びを取り入れると、止まるという動作も加え、楽しむことができた。



#### 【1歳児】

##### □木の棒通しセット

椅子に座ってじっくりと遊べるよう机の上に用意すると、集中して取り組む姿が見られた。穴や輪の大きさが年齢にちょうど良く、指先を使って一つずつ棒に通していく。慣れてくると、色ごとに分けて通す子も増えた。また、高月齢児は、ひも通しにも挑戦するようになり、通す→抑える→持ち替える→引っ張る、という一連の指先の動きを、繰り返し遊びの中に取り入れることができた。



##### □ブロックセット

年度初めは、保育者が積み上げたブロックを一斉に崩しては繰り返し楽しんでいました。しばらく経つと、自分でもゆっくりと一つずつ積み上げるようになる。次第に保育士と共に積み方を変え、ピアノ、家、列車などの見立て遊びに発展していった。



#### □楽器セット

自由に鳴らし、音が出ることを楽しむ。日頃よく歌う歌、好む歌、リズムを合わせやすい歌を選び、次第に歌・拍子に合わせて叩く、鳴らすという意識をもつ様子がみられるようになった。福祉施設への訪問の際に演奏発表の機会を設け、自信に繋げることもできた。

#### □ペッタンドロップ(吸盤玩具)

窓や床に保育士が付けた物を取ろうとするが、なかなか取れない為、保育士が手を添えて一緒に取っていた。そのうち、指先でひねりながら取ろうとしたり、掌全体で強く引っ張ろうとしたりと、一人でも付けはずしができるようになった。力を入れる体勢や加減に変化が出るよう、場所を変えながら設定した。吸盤部分同士をくっ付けようとする慎重な動作にも挑戦する姿が見られるようになった。



#### 【2歳児】

#### □マルチ運動遊びセット

輪を上下に段差をつけて設置し、またいだりジャンプで跳び越えたりして遊んだ。輪の向きを横から縦にし、的当てのように変化させ、ボールを輪の中めがけて投げる、左右チームに分かれ互いに投げ合うなども、これまでになかった遊び方だったこともあり喜んで遊んでいる様子であった。また、輪と同じ色のボールがあった為、色ごとに集めて輪に通すなど、ルールも発展させながら楽しんだ。

□わくぐりトンネル、折りたたみ鉄棒  
トンネル→滑り台→鉄棒を、様々な動きを取り入れた障害物走ごっことして組み立てた。トンネルをくぐり、マット滑り台の傾斜を四つん這いで上り座位で滑り下り、鉄棒に10秒皆で数えてぶら下がってゴール。二人ずつ競ったり、個々に自由に遊んだりした。鉄棒は年間通して、平均身長に合わせ高さを調整しながら行った。





#### □あなぼこ(ビニール遊具)

まずは穴から中に入り、上部や横の穴から、顔や手足を出したり引っ込めたりして遊びだす。数名で一緒に入り電車ごっこのように進んだり持ち上げたりしていた。ある日、穴が広い方を上にすることを思いつくと、数名で一緒に中で座り、他数名と保育士は外側から遊具ごと回し、どちら側も体全体を使い楽しんでた。中でお尻が床に付かないよううまく足で踏ん張り寝そべった状態になり、まるでハンモックのようにしながら体全体が揺れる動きを大笑いしながら楽しんでた。

#### □エアボールラウンド

室内で利用した為、窓や壁に当たり跳ね返ってくる度に、両手、お腹、頭、足で飛ばそうとし、まさに体当たりで遊ぶ。大きなエアボールならではの、浮く、揺れる、変形するといった特徴が、これまでの遊びではできなかった動きを引き出し、感触も新鮮で喜んで遊んでいた。



### 3. その成果と評価

計画への取り組みの下、発達を引き出し、促し、伸ばすことができた体の動きは、次の通りである。

#### 【体のバランスをとる動き】

立つ、座る、寝転ぶ、起きる、回る、転がる、渡る、ぶら下がる等

#### 【体を移動する動き】

歩く、走る、跳ねる、跳ぶ、登る、降りる、這う、よける、滑る、くぐる等

#### 【用具などを操作する動き】

持つ、運ぶ、投げる、捕る、転がす、蹴る、積む、漕ぐ、掘る、押す、引く、つまむ等

生活内には見られない輪っかや棒、穴などの遊具を用いることにより、“遊びたい”という意欲を刺激し、移動運動が促される。それにより、手、足、腰、首、背中の筋力が強化され、歩行や座位の安定を図ることに繋がられた。大きい物に喜ぶ、小さな空間に潜り込むのを好むなど、子どもの特性を活かしながら行うことで、無理なく運動時間を確保することも可能であった。

体を支える力が安定していることで、指先を使った遊びに集中する時間が以前より伸び、子ども達から進んで遊び始めることが増え、細やかな動きの獲得に影響を与えたと考えられる。

このように、新たな遊具等を用いて活動を一年間継続的に行ってきた結果、0～2歳児までに身につく基本的な体の動きを、年齢ごとにおおむね獲得できるようになった。また、多様な遊びの環境により動きにも幅が出たことで、自発的に何度も繰り返すようになり、それに面白さを感じながら体を動かすことができるようになったのではないかと感じている。これらは、期待していた成果であり、大変有意義な保育活動となった。

#### 4. 今後の課題と展望

新たな遊具の中には、0～2歳児にはやや高度かと思われるような遊具が含まれるが、成長の伸びしろを止めてしまわないよう敢えて取り入れ、活動に用いた。難しいことや年齢による危険性が考えられた為、室内用遊具の使用から遠ざかってしまうクラスも見られたが、それらの遊具を低い年齢に合わせた安全な活動として用いるよう、また、適当な体の動きの獲得に繋げられるよう、保育士が工夫を凝らし計画をする必要がある。

今回の意識的な取り組みを一過性のものにせず、一人ひとりの発達の実情を的確に捉えることに留意しながら、年齢と共に獲得する動きが増大していける基礎を培うべく、積み重ねを大切に、今後も継続して取り組んでいきたい。

以上